

平成 23 年度

《第 4 回》

# 国語

時間 50 分、100 点満点

## 受験上の注意

1. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
2. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。記入方法を誤ると得点になりません。
3. 試験終了の合図とともに、解答用紙・問題用紙とも提出してください。

郁文館中学校

一、次の文を読み、後の問いに答えなさい。

ガーデニングは健康にもよく、庭やベランダがきれいになつて大変結構。でも一人で行うのはちょっと気が重いので誰か手が欲しい、とか、たまに友人のところに遊びに行きたのだけれど、水のやり忘れが心配で「 A 」、といった話をよく耳にする。  
（ X ）、「いつも庭をきれいにしたくてガーデニングを始めたのに、せっかく植えた草花がパーツと一回咲いただけで、あとは次々と咲いてくれない。がっかりした」といつたつぶやきも耳に入る。これはチューリップや百合が咲き終わつたあとで聞かれる話だ。こうした方々の頭の中には、常に花がいっぱい咲き続け、放つておいても一番花が咲いてくれる、そんな庭にしたい、といった欲張りずくめの考え方があつぱい詰まつているのではないか、と思う。

例えば桜の花見を考えてみよう。桜は年に一回しか咲かない。さらに雨風に当たると、a カンショウ できるのはせいぜい一週間くらいの年もある。秋の紅葉にしても同じことで、美しく色づいた葉を何回も楽しめるわけではない。元来、こうしたはかなさを b 備えているのが植物という生き物であり、そこにめぐらしく巡りくる季節感や、喜びや淋しさ、といった人の感性に触れるよさがあるうというものだ。そうした①はかない詩情があるからこそ、詩や歌や、絵の好材料ともされてきたのである。

（ Y ）花づくり、野菜づくりを始めるときはなんといつても、開花や収穫という目的に向かってしっかり日々の仕事を行うべきで、花が開いた、といつては家族で喜び、野菜がとれた、といつては皆で食べて味の c 善し悪しを話し合つたり、虫に食われてしまつたことを残念がつたり。そうしたこと目標にして家族みんなで楽しむ園芸を実行してみてほしい。また、草花や野菜だけでなく、庭木にしても、小さな苗木から自分の手でこれを育て、よい形に仕立てるために努力をしたり、あるいは花を咲かせるための工夫を続けることが園芸への第一歩といつてよい。

これはいわば、②義務教育を受けているのと同じと考え、面倒でも行つてほしいが、その段階に止まつてはだめ、学校でいえば、高校・大学へと進んでほしい。

それは何かといえば、植物を育て花を咲かせる、という行為は人生にどんな影響を与えるのか、ということや、自分は植物や花から何を学んでいるのか、といったことについても思いを馳せていただきたいということだ。

庭一面に花を咲かせ、その中でお茶を飲んだり、友人と談笑したり、といった夢を持つてガーデニングを行うのも結構なことだ。こうした夢を持ち、そこに突き進む人の意思こそが大事だし、一つの修業と考えれば、日々の手入れの時間は惜しくないはずである。花一面に咲いたところに立ち、これを誰かに写してもらい、人生の一つの記念としてアルバムに貼るのもよい。「写真に残そう」と考えれば、雑草がいっぱい生えているところを写したのでは、長く記録として残るので、恥ずかしくて人には見せられない。そこで雑草もしつかり抜き取り、枯れた株は補植をして花壇の化粧を完了し、そこにたたずんでニッコリとカメラに d オサまる。こうした写真をいくつも e 拝見しているが、これはこれで結構なことであり、その方の努力と集中力を高く評価しなければいけない。

（ Z ）これだけで止まつてしまふのでは、せつかくのガーデニングを行つた、③本来の目的には到達していない。先にも挙げたように、これを行つて何を得たのか、どんな

得があつたのか、といったことを考えてみるのも必要だろう。あるいは花を育てながら自分が何を学んでいるのだろう、といった「 B 」もたまには行つてよいのではないだろうか。

そうすることで、自分の中に今までにない何かを発見できたとしたら、あなたがガーデニングを趣味として選んだのは幸福な選択だったことになる。ただし、これは自分で選んだ植物を自分で育てたときのみいえることだ。人を頼んで花づくりをし、花といった結果だけを目的に行うのでは、園芸本来の目的から離れてしまう。

ガーデニングという言葉は、一世を風靡した流行語でもあり、また響きのよい言葉なのですが、使いたくなるが、本当のガーデニングとはあくまでも自分で行う、というのが大前提だ、ということをお忘れなく。植物から何かを学ぶ、といった気持ちで接すると、すぐには技術は上達するものだ。

（江尻光一『至福の園芸』より抜粋）

問一 二重傍線部 a～e のカタカナは漢字に改め、漢字は読みを答えなさい。

問二 (X) ～ (Z) に入る適當な言葉を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ言葉を二度使わないこと。

ア しかし イ つまり ウ また エ だから オ さて

問三 「 A 」には、本来必要な言葉が省略されています。適切な言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 誰か手が欲しい イ 遊びに行けない ウ ちょっとと気が重い エ 大変結構

問四 「 B 」に入る四字熟語として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自画自賛 イ 自暴自棄 ウ 自作自演 エ 自問自答

問五 波線部「一世を風靡<sup>ふうび</sup>」とは、どのような意味だと考えられますか。適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 世界中に大きな風を起こす  
イ 世の中に強い影響を与える  
ウ 一世紀の間、風を吹かせる

エ 次の世代に強く働きかける

問六 傍線部①「はかない詩情」とありますが、具体的にはどのようなものですか、文中から三十字で探し、最初と最後の五字を答えなさい。（読点も字数にふくみます）

問七 傍線部②で使われている比喩<sup>ひゆ</sup>（たとえ）について、次の i 、 ii の問い合わせに答えなさい。

i 筆者が「義務教育」とたとえている内容と同じものを指す七字の表現を文中から探し、書き抜きなさい。

ii 筆者が「高校・大学」とたとえている内容を説明した文として、適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。  
ア 園芸を通して人生について考え、学びを得ようとする  
イ 花壇をととのえ、見栄えのよい庭になるよう心がける  
ウ 年に一回しか咲かない花について、一年中考え続ける  
エ 庭一面の花の中で友人と談笑しあお茶を楽しもうとする

問八 傍線部③「本来の目的」とは何ですか。その内容を説明した次の文の（ ）に  
合う二十字以内の文を考え、答えなさい。

ガーデニングを通して（ ）こと。

問九 筆者の主張として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 花や木を育てることは、人生についての大切な学びの機会ととらえるべきだ。
- イ 植物から何かを学ぶつもりで園芸を行えば、技術はすぐに上達するものだ。
- ウ 園芸を単純なものと捉えず、人生の記念・記録として楽しむ努力をすべきだ。
- エ 健康によく、ベランダが美しくなる園芸に対して眞面目に取り組むべきだ。

二、次の文を読み、後の問いに答えなさい。

土曜日の午後、うめ立て地には、いつもの顔がそろつた。

小屋のまえの岸べきに、行方不明になつていたジャンボ・シーホース号と、ボートがつながれている。嗣郎がひとりで水門のところからひっぱつてきたらしい。

一週間、海水につかりっぱなしになつていた船は、びっくりするほどみすぼらしくなつていた。船体は、こわれた右の舷側をわずかに海面に出して、あとは水中にしづんでしまつている。船の浮力というより、材料の浮力で、ようやく水面に顔を出しているといった状態だった。

「これじやあ、なおしようがないなあ。」

船づくりにいちばんハッスルしていた勇いさむも、沈没船同様の船体を見たとたん、あっさり*さじ*を投げてしまった。

「ああ、一ヶ月苦労して、ばかみちやつた。」

「おれたちだけで大きな船つくろうつてのが、やつぱりむりでしたねえ。」

誠史さとしと勇の会話をききながら、嗣郎がたすけをもとめるように雅彰まさあきをふりかえった。雅彰は、そつと目をそらして邦俊くにとしを見た。邦俊は、いつものとおり、にやにやわらいながら、誠史と勇の会話をきいていた。

嗣郎には、わけがわからなかつた。つい一週間まえまで、あれだけむちゅうになつてしまつていて船ではないか。①それをたつた一週間やそこらで、こうもあつさり投げだしてしまふのか。

もちろん、ジャンボ・シーホース号の構造には、嗣郎も最初から疑問を持っていた。べつに父ちゃんにならつたわけではないけれど、大きな材木をつかう場合には、それなりのやり方がある。まして船のような乗り物なら、よほど丈夫じょうぶにつくらないと役に立たないだろう。ということは予想がつく。ただ木と木をくぎでとめて、形をととのえればできあがるものではないと、うすうすは感じていた。

でも、失敗すれば、それを1キヨウクンにして、新しくつくりなおせばいい。勇たちもたぶんそうするだろう。嗣郎はそう考えていた。

ところが勇たちときたら、自分たちのつくりかけた船を目のまえにしながら、あつさりと船づくりを投げだすという。

嗣郎は、よほど、その理由を問い合わせてやろうかと思つた。だが、嗣郎にはそれをする勇気はなかつた。そんなことをすれば、たちまちここに遊びにくるなどいわれそうな気がした。嗣郎には、それがなによりこわかつた。

嗣郎にとつて、勇や誠実や雅彰や邦俊は、なにか人種のちがう雲の上の人間たちのような気がする。そんな子どもたちと、こうしていつしょにすごさせてもらうだけでも、2カシヤしなくてはならないのだ。

子どもたちには「できる子」と「ダメな子」の二種類があると、嗣郎は確信していた。嗣郎は小学校に入学以来、いや、そのずっとまえ、ひよつとしたら生まれたときから、「ダメな子」だった。〈ダメな子〉は、どんなに努力しても「できる子」にはなれないし、大きくなれば「ダメなおとな」になるにちがいない。父ちゃんも母ちゃんも、やっぱり小さいとき「ダメな子」だったから、大きくなつても「ダメなおとな」にしかならなかつたのだ。

だめな子にも、いろんな種類があつて、たとえばけんかのつよいやつとか、人をわらわせるのがうまいやつは、けつこうたのしくやつていて。だけど、なんの特技も、3根性も持ちあわせていないやつは、ダメな子の仲間うちからもこづきまわされ、ばかにされる。そんな最低の子にできることといえば、せいぜい自分よりいくらかましな a連中におべつかをつかつて、子分にしてもらうほかなかつた。

嗣郎は、今までそうやつて、なんとか生きてきた。

そんな嗣郎が、まったくひよんなことから、「できる子」のなかでも最高のグループと、つきあつてもらえるようになつたのだ。

あれは三月だったか四月だったか、家のちかくで自転車にのつた大道邦俊に出あつた。

邦俊とはクラスもいつしょだつたから、あえбаぐらいはきく。

「どこにいくの？」

嗣郎の質問に、邦俊は、

「うめ立て地。」

と、みじかくこたえた。嗣郎はそれまで町はずれのうめ立て地にいつたことがなかつたし、邦俊がなぜそんなどころにいくのか、多少4キヨウミがあつた。だから、ほんのあいさつがわりに、

「いつしょにいつていい？」

と、たのんでみた。邦俊は、5イガイとあつさりうなずいた。嗣郎も、まさかそこが育英塾にかよう子どもたちのひそかなたまり場とは、思つてもみなかつた。だから、すぐになえろうとした。しょせん自分とは人種のちがう連中といつしょにあそんだつて、ろくなことはない。

案の定、b連中は嗣郎のことを\*うさんくさい目で見た。だがふしぎに、②面とむかつて「かえれ」というやつはいなかつた。

やつぱり「できる子」は、ちがうな。嗣郎はいつたんは感心したけれど、じきにc連中の本心がわかつた。

d連中はいわないのでなくて、いえないのだ。「できる子」という人種は、みずから手をよごしてよわい者をいじめたり、いやなやつをしめだしたりするのにがてらしい。まして、あいてが人種のちがう「ダメな子」とわかれれば、\*おうようにふるまうか、でな

かつたら、まるで無視してしまう。それしかできないのだ。

嗣郎は、ずうずうしくかまえることにした。他人の顔色をうかがつて行動することにはなれていなかったから、けつしてぼろをださないようにして、いつのまにかうめ立て地の小屋にくることを黙認<sup>もくにん</sup>させることに成功した。

しかし、いくら「できる子」とつきあっても、うめ立て地を一步出れば、嗣郎はやはり「だめな子」でしかなかった。学校でも家でも、そしてだめな子の仲間うちでも、そのようになつた。

だけど、うめ立て地にかようようになつてから、嗣郎はそんな連中を、ひそかにばかりにできるようになつた。

「なにいつてやがる。こつちは育英塾にかよつてるエリートとつきあつてるんだぞ。」

そう、心のなかで三毒<sup>みどく</sup>づいてやることができた。

船づくりは、うめ立て地の小屋での嗣郎を、いま一歩、連中のなかへくいこませる絶好のチャンスだった。

今まで必死で四人の顔色<sup>おもていろ</sup>をうかがい、おべつかをつかつて、なんとか仲間にいれてもらつていたのが、船<sup>ふね</sup>をつくるうちに、いつのまにか嗣郎を連中と対等にしてしまつたのだ。

こんなにあつさりと自分が、「できる子」と対等につきあえるなんて、嗣郎は思つてもいなかつた。こぎりのつかい方がうまいとか、かなづちのつかい方をこころえているとか、たつたそれだけのことで、育英塾にかよつているほどのエリートが、嗣郎のことをみとめてくれるとは思ひもよらなかつた。

嗣郎は、うれしかつた。だからこそ、父ちゃんの大工道具まで持ちだして、一心に船をつくつたのだ。

嗣郎は、この一ヶ月のあいだにつくりあげた自分のポジションが、あの船と同様、ずぶずぶと海中にしづみかけているのを感じた。

「じゃあ、いこうか。」

「できる子」たちが、そういつて歩きだした。嗣郎はだまつて防波堤のそばに立ちつくす。

「じゃあね。」

「できる子」のひとりが嗣郎をふりかえる。

⑥ちくしょう！　嗣郎は心のなかでさけびながら、精いっぱいの笑顔をつくり、手を振つてこたえる。

（那須正幹『ぼくらは海へ』より抜粋）

\* うさんくさい・・・なんとなく疑わしい・怪しい  
\* おうよう・・・ゆつたりしていて細かいことを言わないこと。

問一 二重傍線部①～⑤のカタカナを漢字に改め、漢字は読みを答えなさい。

問二 波線部 i ii iii の意味として適切なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

い。

i さじを投げる

ア：あきらめる イ：八つ当たりする ウ：すくいあげる エ：不要なものを捨てる

ii ひよんな

ア：どうでもいい イ：ひよろついている ウ：飛び跳ねるような エ：思いもつかない

iii 毒づく

ア：毒をつける イ：ひどくののしる ウ：悪いことをする エ：悪い点を指摘する

問三 傍線部①「それ」の内容を示している適切な語句を文中から探し、四字で書き抜きなさい。

問四 傍線部②「面とむかって「かえれ」というやつはいなかつた」とありますが、「連中」が「かえれ」といわなかつた理由を、文中の言葉を使って三十字以内で書きなさい。

問五 傍線部③「連中」とあるが、a～eの中でも、傍線部③とは違う集団を指しているものを二つ選び、記号で答えなさい。

問六 傍線部④「おべつかをつかつて、なんとか仲間にいれてもらつていた」は何のためですか。不適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア：自分は「できない子」の中でもできないほうだと思つてゐるため。

イ：自分のこぎりのつかい方やかなづちのあつかい方を教えてもらうため。

ウ：自分をばかにしているような連中を、かげでばかにするため。

エ：うめたて地にいれば、自分も「できる子」の仲間入りができるため。

問七 傍線部⑤「船をつくるうちに、いつのまにか嗣郎を連中と対等にしてしまつた」のは、嗣郎のどのような行為によるものですか。文中から五十字以内で適切な部分を抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。(読点も字数にふくみます)

問八 傍線部⑥「ちくしょう！」嗣郎は心のなかでさけびながら、精いっぱいの笑顔をつくり、手を振つてこたえる」とあります。この時点での嗣郎の気持ちとして適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア：船づくりをあつさり投げ出す理由を問いつめたいが、その勇気がなく、黙つてゐる。  
イ：船のつくり方がへたな勇たちに説教したいが、めんどうでやる気がなくなつてゐる。  
ウ：できる子の仲間入りを果たしたため、思うような行動がとれず、もどかしい。  
エ：仲間だと思っていた勇たちが、当然するはずのことをしないため、ばかにしている。